

## 推し活における消費活動の分析と個人への影響に関する研究

学生氏名 楠瀬 美佳

指導教員 教員氏名 金 東勲

### 研究背景

近年、「推し活」は個人の楽しみや生きがいを支える文化として根付きつつある。推しをさまざまな形で応援する行為は通称「推し活」と呼ばれ、活動スタイルはライブ参戦・グッズや関連商品の購入・聖地巡礼、誕生日会、応援広告などと多様化している。そのため、推し活市場は約 4.1 兆円にもなる。この市場の大きさから、推し活の消費活動が注目されている。

### 研究目的

本研究の目的は、「推し活」をする上での消費活動の動機をもとに分析し、「推し活」がもたらす個人への影響を明らかにすることである。そのため、推し活を通じて生じる人々の消費行動および心理的变化を具体的に分析し、それが個人にどのような影響を与えるのかを確認する。

### 研究方法

本研究では、最も推し活に積極的といえる若者層（19 歳～30 歳）109 人を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート内容は、回答者の基本情報に加え、最推しについての質問と、推し活に対する意識や考え方を問う項目で構成されている。

### 分析結果

アンケート調査の結果、推しを持つ人の約 95%が消費活動を伴うことが明らかになり、推し活の消費活動は感情的な動機によって生じていることが分かった。また、推し活は日常の充実感や自己肯定感の向上に貢献する一方で、心理的負担につながる可能性も示唆された。

### 考察・結論

推し活は、推しとの物理的な距離の近さを求めることが動機となり、お金を使う行為に発展することが分かった。また、このようなファン心理を利用した推し活を促す仕組みはすでに存在しており、推しに対する感情の大きさを消費額の大きさに変換できる仕組みによって、さらなる消費活動に繋がり、現在の推し活市場の存在感を作り出していると考えられる。推し活が個人に与える影響については、推し活そのものが日常に充実感を与え、比較的高い自己肯定感を維持することに繋がっていることが分かった。しかし、自己肯定感をさらに高めるためには、推し活を通してお金を使うことが、自分の経験消費に繋がる役割を果たすこと且つ、周りからの支持や応援・共感を得ているという実感を持つことが重要であることが分かった。

推し活は、ただの浪費としての錯覚的な幸せや心の豊かさではなく、真の充実感や満足感を得るための要素として存在する価値があると結論づける。